



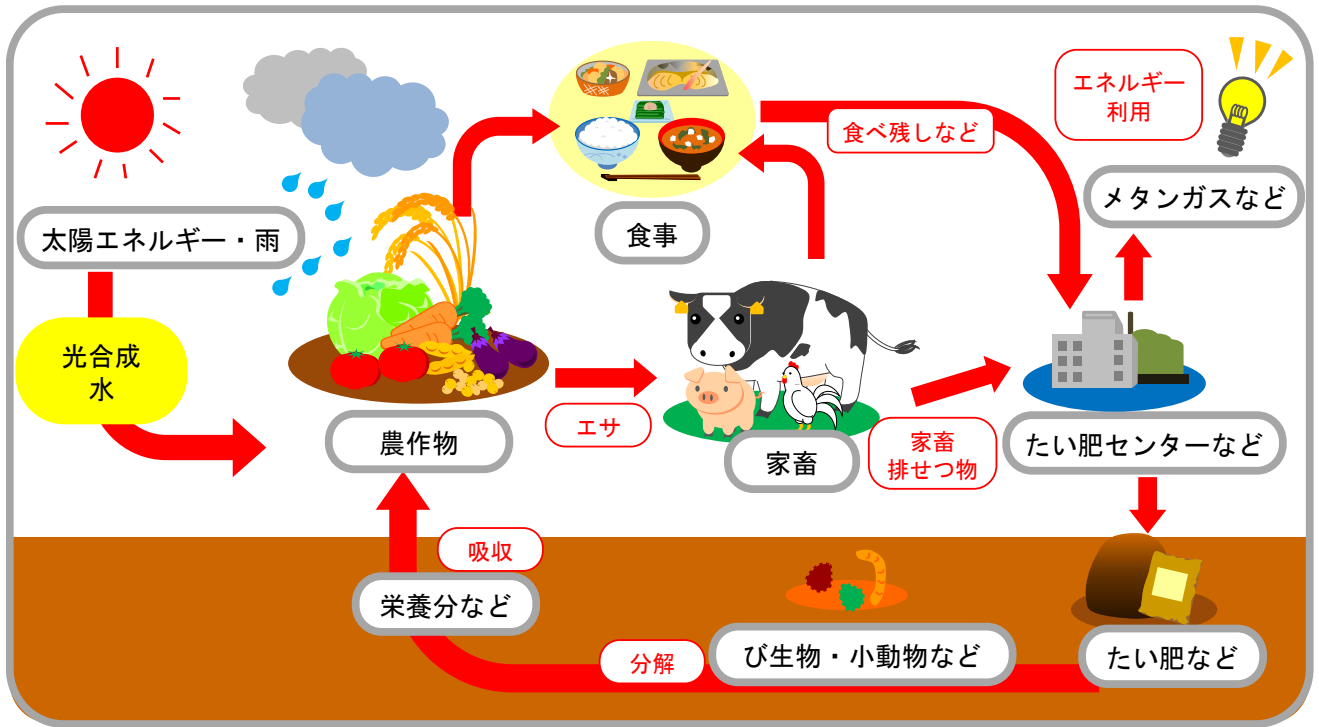
農林水産業は地球の環境にどう関わっているのかな？



農林水産業は、地球の環境にどう関わっているのかな？

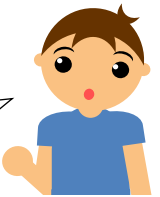
農林水産業は、様々な生き物の生育・生息に重要な役割を果たしています。また、私たちの食事の食べ残しや家畜排せつ物などは、たい肥やエネルギーなどに使うことができます。一方で、農業のための開発や化学肥料、化学農薬の不適切な使い方による環境への影響も懸念されています。

このように、自然と深く関わって営まれる農林水産業を持続可能なものにするために環境にも配慮していく必要があります。



作られた農作物は、形を変えて循環しているんだね。私たちの生活と農林水産業、地球の環境はそれぞれ関係しあっていることが分かるよね。

つまり、農林水産業を守ることは、僕たちの食事や環境を守ることもつながるんだね。農林水産業や地球の環境を守るために、自分たちで何ができるんだろう？



みんなで考えよう

食々物を通じて、みなさんも外国や地域の農林水産業とつながっています。普段の食べものが、どうやって作られているのか、どうやって運ばれているのか、それは持続可能なのか、目の前の食材から一つ選んで、農家さんに聞いたり、本やインターネットなどを使って調べてみましょう。

かんきょう

環境にやさしい農林水産業を実現するために、どのようなことが行われているのだろう？



豊かな食生活をこれからも続けていくためには、持続可能な食料システムの実現が必要です。日本では、「みどりの食料システム戦略」を作って、生産に使う資材・エネルギーの調達から、生産、加工・流通、消費までの取組を、環境にやさしいものに変えていこうとしています。

おんしつこうか

温室効果ガスを減らす取組

地球温暖化を防ぐためには、その原因となっている二酸化炭素などの温室効果ガスを減らす必要があります。農地、森林、海は温室効果ガスを吸収し、地球温暖化の影響をやわらげる働きがあります。農林水産業を通じて、排出される温室効果ガスを削減するために、新しい技術や品種の開発などが行われています。



農業でも、機械や輸送で燃料を使うよね。牛のゲップや田んぼから出るメタンも温室効果ガスになるんだ。



かんきょう

環境に負担をかけないよう配慮する取組

有機農業は化学肥料や化学農薬などを使用せず、環境に負担をかけないように行う農業のやり方です。日本では、環境にやさしい農業を実現するため、有機農業の取組の拡大がすすめられています。

ゆうきのうぎょう

有機農業の拡大には、技術の普及だけでなく、消費者に理解してもらうことが大切です。



有機農業だと、収量が落ちたり手間がかかったりして、値段が高くなる場合もあるんだ。でも、有機農業を上手に行くと、生き物が増えたり、捨てていた資源を有効に使えたりして、普通の農業のやり方よりも環境にやさしくすることができるんだよ。



有機小松菜の施設栽培
写真提供：有限会社山口農園

さまざまな生き物と共存する取組

農林水産業によって維持される生態系も存在します。例えば、水田や水路は洪水によってできる湿地の代わりになり、メダカやカエルなどの生息場所となります。

一方で、整備された農地や水路、不適切に使われた農薬や肥料などは、生き物のすみかに悪い影響をもたらす場合もあります。



田んぼのように、人の手が加わることで維持されている自然環境を「二次的自然」とよぶんだ。



遠い所よりも地元でとれた農産物を食べると、輸送のときに排出される温室効果ガスの量が減らせるね。食べものを捨てる「食品ロス」を減らすことも大事だね。

給食で有機農産物を使っている学校もあるよ。みんなが環境にやさしい食べ物を選ぶことも大事だね。



【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第2章第9節



110節